SSKP　東京肝臓のひろば　1977年12月３日　第３種郵便物認可(毎月18回1、2、3、5、6、7の日発行)
第 274 号　2026年10月12日発行　SSKP　通巻第9102号

東京 肝臓のひろば

令和 8 年（2026 年）10 月号 **第 274 号**

特定非営利活動法人 **東京肝臓友の会**

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
http：//www.tokankai.com



牧野記念館　～東京・練馬区～　　切り絵　佐藤廣士さん

年会費は ゆうちょ銀行 以外 からも お振込 いただけます

年会費の納入方法は、ゆうちょ銀行／郵便局からの払込以外にも

「東京肝臓友の会のゆうちょ銀行口座に、他の金融機関から振り込む」

方法がご利用いただけます。（ネットバンキングでも同様です）

ただし、お振込内容の照合に必要ですので

1) 依頼人名は【会員ご本人様】のお名前にて、

2) お名前の他に【電話番号】をご入力の上、
お振込ください。



★他の金融機関から ゆうちょ銀行口座へのお振込は、
下記の「振込用口座番号」をご指定ください。

●ゆうちょ銀行
店　　名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店）
口座番号：当座　００４０５６４
口 座 名：特定非営利活動法人 東京肝臓友の会
または　トクヒ）トウキョウカンゾウトモノカイ

もくじ | Index | 東京肝臓のひろば 274

2 お知らせ
3 第14回 世界・日本肝炎デーフォーラム 医療講演
「ベトナムにおける肝臓病の現状と取り組みを学ぼう！」
大阪公立大学大学院医学研究科 特任教授
一般社団法人 日本アジアメディカルリンク代表理事
河田則文先生
28 PBC・AIH・PSC通信
29 ジコメン・メディカル
帝京大学医学部付属病院 田中篤先生
30 「第62回日本肝臓学会総会」に参加して
米澤敦子
31 活動日誌（8月、9月）
32 情報BOX
東京肝臓友の会主催 市民公開講座のお知らせ

東京肝臓のひろば　1977年12月３日　第３種郵便物認可（毎月18回1、2、3、5、6、7の日発行）
第 274 号　2026年10月12日発行　SSKP　通巻第9102号



日本肝臓病患者団体協議会主催

第14回 世界・日本肝炎デーフォーラム 医療講演

ベトナムにおける肝臓病の現状と取り組みを学ぼう!

会場：星陵会館

日時：2026 年 7 月 26 日（日） 15:20 ～ 16:30

講師：河田 則文 先生
大阪公立大学大学院医学研究科 特任教授
一般社団法人 日本アジアメディカルリンク代表理事

司会　大阪からお越しいただいた河田先生を紹介いたします。1959年、京都府のお生まれで、1986年に大阪市立大学医学部をご卒業後、ドイツのフライブルグ大学、大阪市立大学教授・医学部長、大阪公立大学医学部長などを経て、大阪公立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学教授を務められました。現在は大阪公立大学院の特任教授で、一般社団法人日本アジアメディカルリンク代表理事として活躍されております。

2024年に京都で開催されたアジア太平洋肝臓学会（APASL）では、学会長の椎名先生より依頼され、私たち患者が企画した市民公開講座でご講演とパネルディスカッションにもご参加いただきました。それでは河田先生、よろしくお願いいたします。

河田　みなさん、こんにちは。今日は第14回の世界・日本肝炎デーフォーラムにお招きいただきましてありがとうございます。大阪から参りました河田です。

今日は「ベトナムにおける肝臓病の現状と取り組みを学ぼう！」ということで、大変なお題をいただいたのですが、ベトナムの話だけをすることも難しいので、前半は一般的な肝臓病のお話をして、後半はなぜ私がベトナムとかかわりを持ったのか、ベトナムでのアドバイス活動について話をしようと思います（図1）。

Agenda

1. 自己紹介
2. 肝硬変と肝がんの疫学と病態
3. 慢性肝疾患の現状と治療
4. 私のベトナム関連の活動
5. ベトナムでの肝炎治療の現状
6. まとめ

図1

私の紹介をしていただきましたが、私は昨年、大阪公立大学を定年退職して、今は67歳です（図2）。大学ではいろいろな活動をさせていただいて、「知って、肝炎プロジェクト」でも楽しい思いをさせていただきましたが、なにより私は国際交流が好きで、ユニバーシティカレッジロンドンの客員教授をしていたときには共同研究をしたり、アメリカの肝臓学会にはほぼ毎年出かけて、フェローという称号をいただいています（図3）。後半でお話ししますが、ベトナムのハノイを中心に多くの関係ができて、そのご縁もあって今は自分たちで一般社団法人を立ち上げた、という経過をたどっております。

●肝硬変と肝がんの疫学と病態

みなさんも肝硬変と肝がんについてはよくご存じだと思いますが、

図2



図3



復習ということで聞いていただければありがたいです。

肝臓病はいきなり肝硬変になったり、肝がんになったりするのではなく、慢性肝炎を経て肝硬変になり、一部の人で肝がんを発症することになります（図4）。ウイルス性や現在は脂肪性の肝疾患が増えていますが、慢性肝炎をなんとか阻止しなければいけないということは、この図からもわかっていただけると思います。

これは人の肝臓の腹腔鏡写真です（図5）。正常な人の肝臓の表面はツルンとしています。慢性肝炎になると少しデコボコしてきて、肝硬変になると結節状になってしまいます。結節状になった肝硬変から、肝がんが出てくる可能性があるということは、みなさんもご存じだと思います。こうならないようにするためには、やはり早い段階でこの病気の連鎖を断ち切る必要があるわけです。

世界に目を向けると、肝硬変はどの地域で多く、どういう疾患が原因なのかというのがこの図です（図6）。世界で圧倒的に多いのはアルコールが原因の肝硬変で、ロシアや南アメリカ、オーストラリアに多くの患者がいます。日本、サウジアラビア半島、北アメリカはC型肝炎、お隣の中国やアジア地区、あとでお話しするベトナムは、B型肝炎による肝硬変が圧倒的に多いです。このように肝硬変になる原因は、地域によって全然

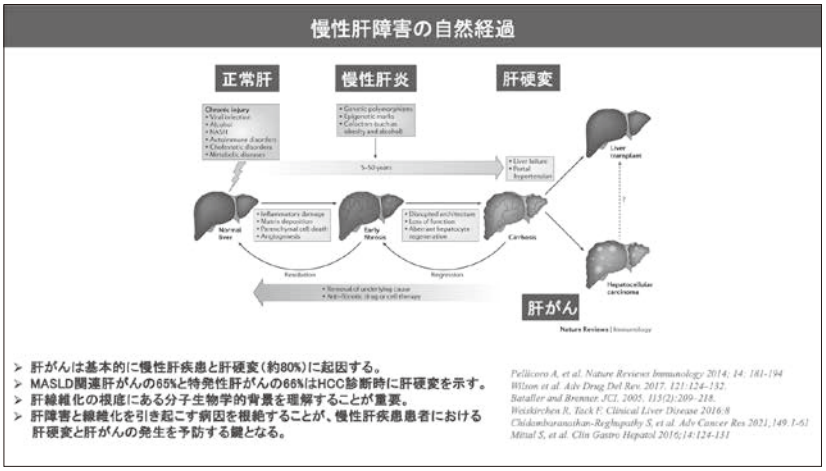


図4



図5

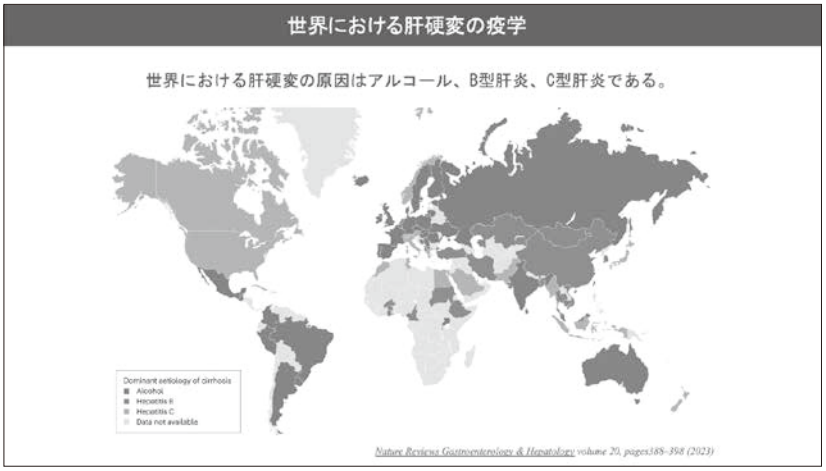


図6

違うんです。日本にいると、そのような認識はないかもしれませんが、世界全体で病気を考えるときには、認識しておく必要があります。

肝硬変になると、左の図のように肝細胞が異形成となって、遺伝子の変化に伴ってがん化してきます（**図7**）。また、高齢者に肝がんや肝硬変が多いのですが、右の図に示しているように、高齢になると細胞は老化していきます。老化した細胞は、自分で炎症物質をつくり始めるので、それだけで持続的な炎症が起こり、「老化肝細胞」「老化回避」と書いてあるように、細胞は老化することによって異形成を生じて発がんするということも、最近はわかってきています。

では、その肝硬変に基づく肝がんはどの地域に多いのか、というのがこの図です（**図8**）。左上が発生率、右上が有病率、左下が死亡率です。肝がんの発生は、東アジア地区に非常に多いというのが一目瞭然ですね。東アジア地区はC型肝炎が一番多い地域です。アルコールも肝硬変の原因としては重要ですが、それよりもウイルス性の肝疾患のほうが、強いファクターとして私たちの命をおびやかしていく可能性があるということです。

世界にどれくらい肝がんの人がいらっしゃるのかというのが、2022年に出された論文に出ています（**図9**）。肝がんの診断数は

図7

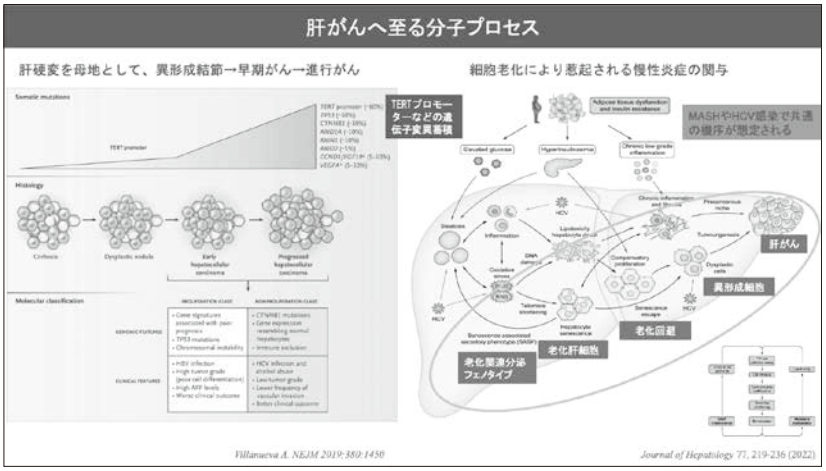


図8

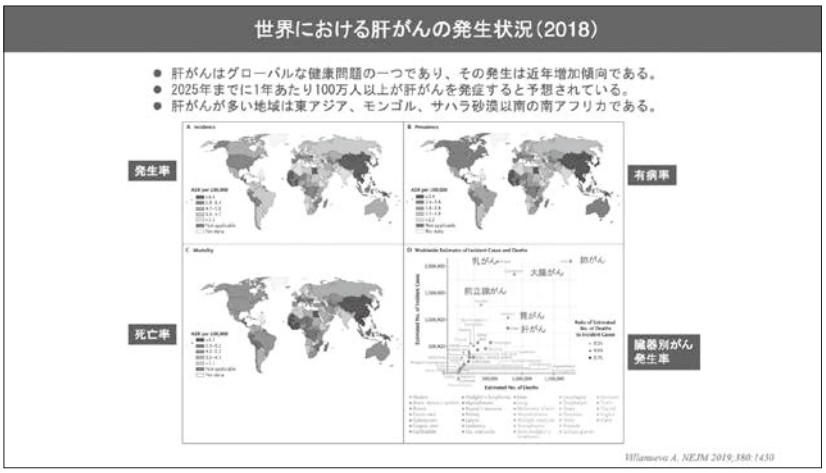
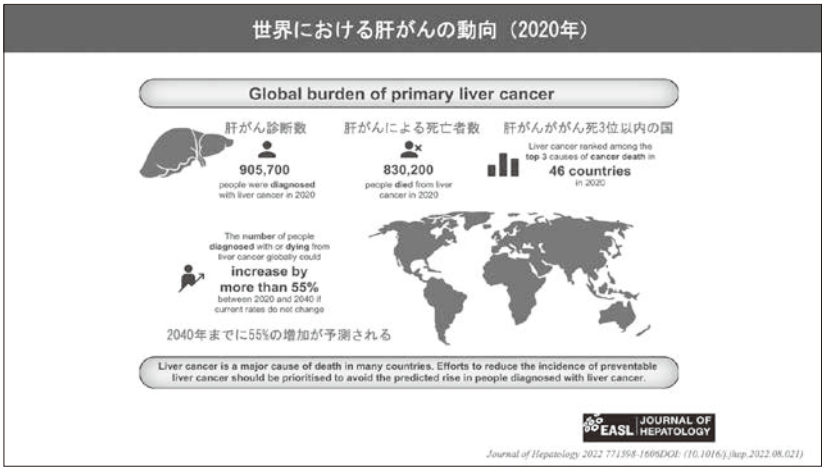


図9



編集人・発行人・障害者団体定期刊行物協会　東京肝臓友の会　〇三（五九八二）二一五〇　〒161―0033　東京都新宿区下落合四―二七―五―二〇一
東京都世田谷区祖師谷三―一―一七―一〇一一

東京肝臓友の会主催　東京都委託事業　市民公開講座

肝臓に良い食事、悪い食事 栄養のこと（仮）



講師　国家公務員共済組合連合会　虎の門病院
栄養部　部長　**土井悦子**先生

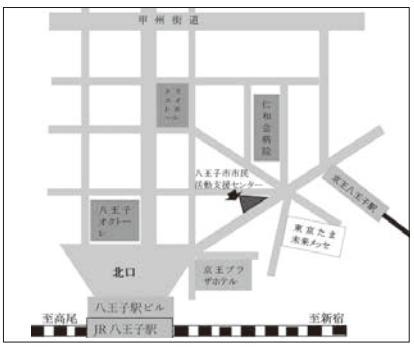
日時　2027年 **2**月 **6**日（土）14:00 ～ 16:00

詳しくは「東京肝臓のひろば」12月号、ホームページでお知らせします！

◆肝硬変の症状に応じた食事って？
◆胆管に炎症を持つPBCやPSC患者が気を付けるべき食べ物って？
◆脂肪肝と言われたら食事はどうする？
などなど、肝臓病の患者にとって栄養はとても大きな課題です。
この機会にしっかり勉強しましょう
先生への疑問・質問のコーナーもありますよ

情報BOX

◆八王子肝友会
「何でも語ろう会（12月）」
出席者の近況や治療・薬剤等についての情報交換を行います。
日時　12月13日（日）10:15～12:00
場所　八王子市市民活動支援センター



JR中央線　八王子駅北口　徒歩約5分
京王線　京王八王子駅中央口　徒歩約3分

申込　不要、無料
オンラインで参加希望の方は12月10日（木）までに要申し込み
問合せ　事務局　東　陽一
✉ yhigashi@jcom.zaq.ne.jp
☎ 090-4122-6229
（図の2次元コードで検索も可）
https://kanyukai802.blog.jp/

須布価格500円（会費に含まれている）

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。